



日暮里にハローワークを開設 女性&若者の就労を応援

日暮里駅前のりそな銀行のビル5～7階にマザーズハローワーク（主に子育て中の女性が対象）、わかものハローワーク（正規雇用を目指す若者対象）が9月1日から開設される。支援員による個別相談、託児付セミナー、就職面接会など。

仕事探しの努力が報われることを願う。安定した雇用を増やしていく国の施策が求められている。



新規事業

あらかわ寺子屋の全校実施

基礎学力の定着をすべての子どもたちに保障したい。しかし、現実には、担任の先生は忙しすぎて、学習に時間のかかる子どもたちへの支援が行き届かない。そこで、補充授業の先生（教員志望の学生や退職教員など）を雇用し、1千万円の予算をつけることになった。始業前や放課後に、週1回程度の補充学習を行う。

いわゆる「落ちこぼれ」をなくして、授業で「お客さん」になって時間をすごす子どもをつくらぬ教育が望まれるが、ひとりひとりの生活や学習の様子を把握することが必要だ。

低学力の子どもたちが陥りがちなのが、「どうせだめなんだ」という自己否定＝自己肯定感のなさだという。自己肯定感のあるなしがその後の人生を左右するといわれる。勉強だけに限るわけではないが、基礎学力だけは身につけてほしい。

認知症サポーターになろう！ 認知症を支える温かい地域づくり

1月28日、ひぐらし小学校（5年生）で認知症サポーター養成講座が開催された。全国的に小中学生向けテキストも準備され、各地で学校向けの取組がすすんでいる中で、荒川区で初めての取組である。クイズで子どもたちの関心を高めながらの説明や先生方に加わってもらったの劇で、わかりやすく説明がされた。子どもたちは、認知症が誰でもなりうる病気であること、やさしい言葉かけが大切なこと、子どもと会話し、遊ぶことが症状の悪化を遅らせることなどを学んだ。きっと、家庭でも認知症が話題となったであろう。



武器輸出？
集団的自衛権？
とんでもない！
暴走する
安倍政権に歯止めを！

避難所には簡易ベッドを

東日本大震災の際、避難所では床に寝具を直接敷いた状態が長く続いた。これが高齢者の健康を害し、介護が必要となる人が多かった。その反省から、今提案されているのが24個の段ボール箱を組み立てるだけの「段ボール製簡易ベッド」である（写真参照）。あらかじめ自治体と段ボール会社が契約しておき、災害発生と同時に、無事な地域の会社から直ぐに供給される仕組み。荒川区でも検討するように要望中。



無料弁護士相談をご利用ください

毎月第3土曜日 11時からせの事務所にて（日暮里駅から徒歩5分）

予約制、日時の変更もできます。ご予約は、せの喜代まで TEL/FAX 3891-0203